

えど友ホームページ http://www.edo-tomo.jp/

江戸東京博物館友の会会報

	友の会の構成 会員数は横ばい、平均年齢は微増で 65.8 歳]	えど友プラザ 深川開発と伊奈家 · · · · · · · · · 7
	友の会セミナー 「お江・秀忠と子どもたち」 2	江戸野菜で江戸めぐり 7
1	友の会セミナー 「江戸歌舞伎の事件史」 3	四谷怪談とお岩さんの素顔 ······
	特別観覧会 「世界遺産ヴェネツィア展」 4	「御行の松」の今昔 ········
於	江戸博クリップ 「よくできた通俗道徳」 4	落語で江戸散歩…② [目黒のさんま] 10
	見学会 「 再訪 江戸四宿を歩く―板橋」 5	催事案内
	えど友サークルだより/会議・会合日誌6	会員優待のお知らせ /『えど友』へのご意見を 12

友の会の構成 会員数は横ばい、平均年齢は微増で65.8歳

会員のみなさんから入会時や更新時 にいただいている性別・年齢・住所・ 入会日などのデータを本年8月末に集 計しましたので、その結果をお知らせ します。

まず、会員数は昨年初めて前年より 減少し注目されましたが、今回は21 人増加し 1,629 人となり、ほぼ横ば い状態が続いています。

◎男性 67.5% 女性 32.2%

男女比では、やや女性の割合が増加 しましたが大きな変化はありません。

<表 1 参照>

表 1 〈男女別〉

	2011年8月末		2010年8月末	
	人数	%	人数	%
男性	1,100	67.5	1,095	68.1
女性	525	32.2	510	31.7
不明	4	0.2	3	0.2
計	1,629	100.0	1,608	100.0

○やはり60代、70代が多数

年代別ではわずかに減った60代と さらに増えた70代で67.1%を占め ています。若い層では30代が13人減、 40代が9人増です。平均年齢は昨年 同様 65 歳台ですが、昨年より 0.6 歳 ほど高くなり、友の会でも高齢化が進 んでいることが分かります。

<表2参照>

表2 〈年代別〉

	2011年8月末		2010年8月末	
	人数	%	人数	%
30 歳未満	8	0.5	8	0.5
30代	30	1.8	43	2.7
40 代	93	5.7	84	5.2
50代	213	13.1	236	14.7
60代	614	37.7	617	38.4
70代	479	29.4	445	27.7
80 歳以上	132	8.1	109	6.8
不明	60	3.7	66	4.1
計	1,629	100.0	1,608	100.0
平均年齢	65.8		65.2	

◎都民は微減

昨年と同様に都民、特に23区居住

表3 〈住居地別〉

	2011年8月末		2010年8月末	
	人数	%	人数	%
23 区	855	52.5	862	53.6
23 区以外	165	10.1	164	10.2
(東京都計)	(1,020)	(62.6)	(1,026)	(63.8)
埼玉県	174	10.7	159	9.9
千葉県	236	14.5	237	14.7
神奈川県	105	6.4	100	6.2
(3県計)	(515)	(31.6)	(496)	(30.8)
その他	94	5.8	86	5.3
計	1,629	100.0	1,608	100.0

者がわずかですがその数を減らしてい る中、埼玉県が15人増となりました。 さらに、1 都 3 県以外の「その他」も 年々増加か続いています。

<表3参照>

◎発足時入会の人がなお 171 人

2001 年から 2005 年までに入会さ れた人は517人で全体の31.7%を占 めています。中でも発足した年に入会 された人が171人(10.5%)います。

<表 4 参照>

表4 〈入会年次別〉

	2011年8月末		2010年8月末	
	人数	%	人数	%
2001 年入会	171	10.5	189	11.8
2002 年入会	64	3.9	67	4.2
2003 年入会	106	6.5	111	6.9
2004 年入会	75	4.6	82	5.1
2005 年入会	101	6.2	108	6.7
2006 年入会	168	10.3	187	11.6
2007 年入会	194	11.9	218	13.6
2008 年入会	222	13.6	265	16.5
2009 年入会	182	11.2	204	12.7
2010 年入会	194	11.9	177	11.0
2011 年入会	152	9.3		
計	1,629	100.0	1,608	100.0

【報告】広報部会・天野哲夫

集計:事務局・京極裕希子

第 108 回 江戸東京博物館友の会セミナー (2011/8/27)

「お江・秀忠と子どもたち」

講師 小和田哲男さん (静岡大学名誉教授・文学博士)



秀忠と結婚するまでのお江

お江は浅井三姉妹の三女末娘として生まれました。長女茶々は豊臣秀吉の側室淀殿です。茶々は鶴松を生んだ時点で秀吉の二人目の正室として格上げされ、『信長公記』を書いた太田牛一が書きかけた『太閤様軍記のうち』の中にあきらかに茶々のことを「北の御方」と書いてあります。二女初は近江の名門(北近江の守護)の御曹司京極高次と結婚しました。

お江の最初の結婚は12歳の時に伊勢湾水軍を東ねる佐治一成16歳との結婚でした。しかし小牧・長久手の戦いにおいて秀吉に敵対する織田信雄に一成がくみしたことで強制離婚させられました。地元には娘が2人生まれていたという伝説と正式な婚姻ではなく婚約のみで実際には嫁いでいないという異説があります。

二度目は羽柴秀勝で、秀吉には秀勝が3人いました。1人目は秀吉が長浜城主時代に側室南殿に生ませた石松丸秀勝で(竹生島の宝厳寺にある奉加帳に名前が残っています)、4、5歳で死んでいます。次に織田信長の四男於次丸秀勝を養子に迎え10代で死んでいます。3人目の小吉秀勝は秀吉の姉ともの子秀次の弟で養子となりお江と文禄元(1592)年結婚しました。その直後文禄の役か始まり、秀勝は出陣してすぐに唐島(巨済島)で戦病死しました。

お江を秀忠に嫁がした秀吉のねらい

小牧・長久手の戦いの後、徳川家康は人質として二男於義丸を送り、秀吉は養子として秀康と名乗らせます。また正室のいない家康に妹朝日(旭)姫を嫁がせますが、天正18(1590)年北条小田原攻めの年に朝日姫が亡くなります。すぐに家康の三男秀忠と養女小姫(織田信雄の娘)を婚約させますが、次の年に小姫は亡くなります。文

禄2(1593)年の秀頼の誕生と文禄4 (1595)年の秀次事件の後、秀吉は秀次切腹(7月15日)の2カ月後に養女お江(23歳)と秀忠(17歳)を結婚(9月17日)させています。今後も豊臣家と徳川家は姻戚関係を結び、秀頼を秀忠が補佐するというねらいだと思われます。

お江と秀忠の子どもたち

慶長 2(1597)年長女千姫が生まれました。続けて慶長 4(1599)年に珠姫(子々姫)、慶長 5(1600)年に勝姫、慶長 8(1603)年に初姫と姫ばかり生まれ、後継ぎが生まれません。慶長 6(1601)年に家女に長男長丸が生まれますが、2歳で死んでしまいました。

慶長 9(1604)年7月17日に二男竹 千代が生まれます。異説として、福田 千鶴さんは『江の生涯』の中で、竹千 代はお江が生んだ子どもではなく別の 女性が生んだ可能性が高いとされてい ますが、松平から続いた由緒ある幼名 の竹千代と名付けたことからも正室お 江が生んだのではないかと思われます。

竹千代の乳母になぜお福が選ばれたのかは分かりません。慶長9年、『春日局由緒』では京都に乳母募集の高札が出たと書かれてありますが、関ヶ原の功労者である稲葉正成が浪人し妻(お福)子がいるということを知っていた家康が乳母に推薦したのではないかと思われます。

2年後、慶長11(1606)年に三男国松が生まれます。年子で慶長12(1607)年に和子が生まれます。一説には側室が生んだという記録が越後から出ています。本当はお江が生んだ子は何人なのか今後の研究によっては変わってくるかもしれません。

竹千代と国松が江戸城で育っていく 中で、お江も秀忠も病気がちで性格も 内向的な竹千代よりも健康で聡明な 国松の方をかわいがり後継ぎにふさわ しいのではないかという考えがよぎり、 家臣たちも国松の部屋の方ばかりに集 まるようになる状況になったことが 『春日局由緒』に書かれています。慶 長 16(1611)年お福は竹千代が廃嫡 になるのを心配して伊勢参りを口実に 駿府の家康に直訴しています。家康も 長男が嫡男になるという長幼の序の考 え方から、お江と秀忠の前で竹千代と 国松の立場をはっきりさせています。 この年に書かれた家康からお江あての 「訓誡状」の写しが何通か残ってい ます。内容的には厳しいもので、幼い 時のしつけ特に「惣領は格別である。 それ以下は召使同然に育てよ」とあり ます。

長女千姫は慶長8(1603)年に7歳で秀頼に嫁ぎます。その時お江は大坂までついて行っています。大坂の陣で秀頼と別れ、姫路の本多忠刻に嫁ぎました。二女珠姫はわずか3歳で前田利常に嫁ぎ、徳川家と前田家のきずなを強めました。三女勝姫は結城秀康(秀忠の兄)の子供松平忠直に嫁ぎました。四女初姫は生まれてすぐ姉初の養女となり京極忠高(高次の子)と結婚しました。五女和子は家康の「この子は天皇家に嫁がせよ」という計画のもと後水尾天皇に嫁ぎ、橋渡し役として初期の徳川幕藩体制と朝廷との親密な関係を作りあげた女性とみていいと思われます。

最後にお江が死んだ後、三代将軍家 光(竹千代)が弟駿河大納言忠長(国松) を自害させるということもありました が、お江の生んだ三代将軍家光が徳川 幕藩体制を盤石なものにしたことで子 どもたちに恵まれた一生ではなかった かと思われます。

> 【記録】文:広報部会・佐藤美代子 写真:同 佐藤幸彦

江戸歌舞伎史の全貌を90分で語る ことは不可能ですが、今日の洗練され た歌舞伎が出来上がる過程を、歌舞伎 界の節目となった事件とつづり合わせ て説明したいと思います。

絵島生島事件と「勝扇子」事件

歌舞伎関係の事件というと何といっ ても絵島生島事件です。正徳4(1714) 年の大奥女中・絵島と役者・生島新五 郎の恋愛事件で、将軍の子を産む可 能性もあった大奥女中が制外者(人 外者) の役者と恋愛沙汰を起こすなど はもってのほかだったのです。被処分 者は1,500人、新五郎は三宅島に遠 島、絵島は信州高遠藩預け(押し込め)、 山村座は取りつぶしとなりました。

もうひとつ大きな事件は、宝永5 (1708)年、京の人形浄瑠璃の興行師 と浅草の弾左衛門が 櫓 銭 (上納金) をめぐって争った裁判で、支払わなく てよいという判決から、二代目市川団 十郎は人形浄瑠璃と歌舞伎は社会的に 差別された下層から脱したと解釈して、 裁判の経緯を記録、「勝扇子」と名づ けて保存しました。

天保の改革と歌舞伎

天保の改革で幕府が芝居者に下した 処分は大きく四つあります。(1)芝居町 を浅草寺裏に移す、役者は芝居町に住 む(新吉原の近くに移すということで、 二大悪所を一つに移しまとめる)、② 小芝居の禁止(幕府公認の劇場の大芝 居以外を禁止)、③七代目市川団十郎 の江戸十里四方追放(ぜいたくへの 見せしめ)、④役者は外出時編笠着用、 役者と町民との交流禁止、みだらなも のの上演禁止など6項目の言い渡し、 ですが、④は寛政 6(1794) 年にも同 様の通達を出しています。

歌舞伎の成立と変遷

では歌舞伎の起源にさかのぼって、 事件を追ってみましょう。歌舞伎の語 源は動詞「傾く」です。「かぶき者」とは 世間の常識や習俗に従わずに極端な言 動や身なりをしている者のことで、徳 川が天下を取った直後の慶長8(1603) 年に京都の鴨川の川原で出雲の阿国が 「かぶき踊り」を興行したのが歌舞伎

第 1<u>0</u>9 世戸 江戸東京博物館友の会セミナー 2 0 1

赤坂

治績さん

(演劇評論家



のはじまり、ということは周知のとお りです。阿国のかぶき踊りについで前 髪の若衆による若衆歌舞伎も人気を呼 び、武士が役者と酒席等を共にする「役 者買い」が盛んになり、幕府は風紀取 り締まりのため寛永 6(1629)年に女 歌舞伎を禁止、承応元(1652)年若衆 歌舞伎の禁止を皮切りに幕府のさまざ まな取り締まりと、それを一々クリア して抜け道を開く、興行主のしたたか な抵抗がはじまりました。

その過程をみると、承応2(1653)年、 三都の歌舞伎の興業再開が許可されま した。前髪を落とした野郎歌舞伎で「物 真似尽くし」を誓っています。

明暦元(1655)年、大名屋敷へ出 張して芸をすることを禁止、寛文元 (1661)年、役者の住居が一般町人の 住居と混在しないよう役者を転居させ ます。

寛文8(1668)年、役者が着てよい 衣類、舞台衣装の種類を通達、天和 3(1683)年大坂で遊女と町人が心中 (「生玉心中」)、心中が上方歌舞伎の 重要なジャンルになります。元禄16 (1703)年には実際に起きた事件の劇 化を禁止、そして宝永5年「勝扇子」 事件、正徳4年絵島生島事件です。

さらに享保8(1723)年、心中者を 厳しく処罰。享保 16(1731)年、桟敷 より楽屋へ通じる通路におとがめ(通 達ではない)。元文元(1736)年、豊 後節の大流行(心中物などをしんみり 歌い込む常磐津・清元・新内・長唄な どに発展)。元文5(1740)年、上方節 の禁止。文化 2(1805)年、尾上松助、 「鏡山旧錦絵」の岩藤役の衣装 が華美につきおとがめ。文化8(1811) 年、社会の出来事を取り上げてはなら ないと通達、大坂角座の「おさん茂兵 衛」を上演差し止め。文政 3(1820) 年3月の殺人事件を劇化しておとがめ、 等々がありました。

歌舞伎の発展

享保の改革、寛政の改革、天保の改 革等、幕府は奢侈をとがめ勧善懲悪の 作品を奨励しましたが、その幕府の方 針に従うよう装いつつ、実際には衣装 や小道具に贅をつくし、悪党・博徒 を主人公にする作品などを作りました。 作劇術で言えば、御家騒動など、江戸 時代に実際に起こった事件を室町時代 や王朝時代など前の時代に仮託したり、 演出には新しい趣向を加えて、江戸の 歌舞伎が完成されました。幕末にかけ ても文化文政に鶴屋南北、天保に河竹 黙阿彌などの名作者が輩出しました。

日本文化の特徴は、古いものも良い ものは残す一方で流行を取り入れ変化 発展させる、ということで、歌舞伎も そのとおりです。

> 【記録】文:広報部会・佐藤幸彦 写真:同・原盛年

江戸東京博物館友の会特別観覧会 (2011/9/30)

特別展「世界遺産ヴェネツィア展 〜魅惑の芸術 - 千年の都〜



12月11日(日)まで開催中の特 別展「世界遺産 ヴェネツィア展 魅 惑の芸術 - 千年の都」の友の会特別観 覧会が、去る9月30日17時から開 催され、130人が参加しました。

観覧会に先立ち、粟屋朋子学芸員に よる"見どころ解説"が行われました。 世界中から多くの観光客が訪れる ヴェネツィア。その水の都がいかに栄 華を誇り、文化的に爛熟していたか を満喫できる美術展だといいます。同 展は江戸東京博物館と東映、TBSに よる共催で実現し、約140点もの作品、 しかもほとんどが日本初出品という前 例のないスケールで開催されています。 「まるでヴェネツィアの主要な作品の ほとんどが日本に貸し出し中ではない かと思うほどです」と、粟屋さんは胸

を張ります。しかし、そんな貴重な芸 術作品の数々だからこそ、日本までの 輸送や展示の際の苦労は計り知れない ほど大変だったようです。

例えば、展示会場中央で一層の華や かさを彩っている「"カ・レッツォー ニコ"様式のシャンデリア」。まぶし く輝くガラス小片を寸分の狂いもなく 組み合わせた、その精巧な技術はまさ しく伝統的な職人芸の極みに達してい ます。500もの色ガラス小片から成 るシャンデリアは、すべて分解されて 運ばれてきたため、スタッフ4~5人 が丸3日をかけて完成させたといいま す。指示書はあったものの、気が遠く なるような作業だったため、先が見え ず、不安に陥ったと言います。

一方、分解することなく、そのまま 運び入れたという「船の模型:ガレー $(94 \times 193 \times 75 \text{cm})$ 」。旗をつけた マスト、錨、44本の櫂など、本物 さながらに作られた模型には、繊細な 装飾が施されています。実際の展示を 見てみると、日本までの長い航路をい かにして運び入れたのかと驚嘆するは ずです。

また、「井戸の井筒 (直径84× 74cm)」は綿密な文様の彫刻が施さ れ、総大理石で造られています。ヴェ ネツィアでは、井戸までが芸術作品に なるのかと面食らう前に、舞台裏の苦 労話も聞かせてもらいました。この重

さもさることながら、歴史的品ゆえの 緊張を強いられた男性が10人がかり で運んで展示しているシーンを想像し ながら、拝ませてもらいましょう。

そんな秘話や裏話などを聞いた上で、 いよいよ展覧会会場に向かいました。

最初の人だかりは直径 108cm の 「地球儀」(元禄元年・1688年)。「日 本を中心に展示している」との話のと おり、見やすい展示になっています。 「世界では、ここまで地理や地名が判 明していたのか」と、参加者は感嘆の

声を上げていました。 そして、注目の絵画「二人の貴婦人」 (ヴィットーレ・カルパッチョ)。この 作品は上部をなす「潟 (ラグーナ)で の狩猟」が20世紀中ごろに発見され、 これまでと見解がまったく変わってし まうなど、非常にミステリアスな作品

とされています。想像力をかきたてる

ように工夫された見せ方になっていま

この展覧会は、ヴェネツィアの魅力 を「第1章 黄金期」「第2章 華麗な る貴族」「第3章 美の殿堂」と3つの 章立てで構成し、展示しています。歴 史的な要素を加えて、幅広い角度から 楽しめる展示になっているということ も特徴の一つです。会員の皆さんは都 市史という観点から楽しむこともでき

【取材】文・写真:広報部会・平林美幸



す。

「よくできた通俗道徳」

「人の一生は重荷を負て長き道をゆ くが如し」とは、かの有名な徳川家康 公の遺訓である(江戸時代の偽書です が…)。さすが江戸幕府をつくった人だ けのことはある。このしがない一人の 研究員の人生も予言していた。という のも、毎朝、娘を一駅先の保育園まで 送り届けているのだが、つい最近まで うまく歩けなかったので、抱っこ紐を 使用していた。

しかし、この電車を使っての送迎が 一つの試練である。県庁、市庁舎の最

寄り駅であるにもかかわらず、この駅 (しかも高架だ)には、エレベーター、 エスカレーターがない。約40段にわ たる急勾配の階段を13kgにもなる娘 を抱っこして(背負ってないが)、毎朝 登り切らねばならぬ。特に今年の夏は 朝から暑かった。そして1歳11カ月に なる娘はとても温かい。登り切った途 端に汗が出てきて止まらない。イメー ジのつかない方はJR両国駅東口のも う少し急な階段だと思っていただきた い。毎朝の試練だったが、現在娘は自分

石 山 秀 和 の足で登っている。なぜか手提げバッ

るのではないでしょうか。

クが大好きで、小さなトートバックに タオルとかパースケースとか余計な荷 物を入れて階段を登り始めている。早 くも家康公の人生修行の始まりである。 毎日、毎日一緒に登ってます。足腰を 鍛えて将来はなでしこジャパンかなぁ。 ただ、疲れるとすぐに「抱っこ!」の 娘である。まだまだ道のりは長い。

◆このコラムは江戸東京博物館の学芸員や 専門研究員、事務職など館職員の方に執 筆をお願いしています。



江戸東京博物館友の会 見学会 (2011/9/25)

「再訪 江戸四宿を歩く―板橋宿」

前回の千住宿に続いて、「江戸四宿」 再訪の第三弾として、板橋宿の見学 会が実施されました。秋晴れの空の 下、JR埼京線の「板橋」駅に集まっ た 171 名の参加者は、18 班に分かれ て旧中山道を巡ります。板橋宿は、日 本橋寄りから、平尾宿・中宿・上宿の 3宿から成り、それぞれに名主が置か れていました。

中山道の平尾宿と追分

「板橋」駅東口前に、新撰組局長「近 藤勇の墓所」があります。明治当時官 軍本陣が板橋宿にあり、慶応4(1868) 年に流山で捕らえられた近藤勇は、こ の近くで処刑されたといわれ、自然石 の墓が新旧二つ?も置かれています。

江戸より二つ目の「平尾一里塚」辺 りを通り、中山道を進むと、やがて、 川越街道との分岐点「平尾追分」。右 側が中山道で、昔と変わらぬ道幅のま まで、今もにぎわいを見せています。

右手の横道にある「東光寺」には、 子孫が建てた宇喜多秀家の供養塔が置 かれています。この寺は延宝7(1679) 年に加賀藩下屋敷が板橋に移転されて きたため、当地平尾に移動されました。 ちなみに上屋敷は本郷、中屋敷は駒込、 蔵屋敷は深川に配置となりました。

次の「観明寺」は、室町初期創建と 伝えられ、「正面の門」と「出世稲荷」 は加賀下屋敷から移築したもの。ここ で、興味深いのは享保8(1723)年造 立の「疱瘡石祠」です。何と、これは 石の正面の穴にカサブタを入れ、疱瘡



▲平尾宿脇本陣跡

除けにする守り仏でした。

平尾宿脇本陣跡へ

「平尾宿脇本陣」は平尾宿の名主豊 田家で、幕末に近藤勇か約20日間監 禁され、この家の子供たちと遊んだと いうところ。「脇本陣」跡の碑があり

近くの「いたばし観光センター」で は「歓迎 江戸東京博物館友の会御一 行様」と書かれた看板が迎えてくれま した。参加者の方々はここで一息つい て、展示されている栗原家文書の「街 道絵図」に見入りました。

このあと、明治 21(1888)年に寄付



▲いたばし観光センター

を募って完成した「王子新道」との交差 点に出ます。ここまでが「平尾宿」です。

本陣と中宿脇本陣跡

宿場施設として重要な馬つなぎ場の あったという「遍照寺」には、寛政 10(1798)年造立の数体の馬頭観音が 草影にひっそりと並んでいます。

「乗蓮寺」は家康から10石を寄進 された御朱印寺で、将軍吉宗鷹狩りの 休み所・御膳所とされた屋敷跡です。

ようやく、「板橋宿の本陣」に到着。 しかし、ビルの片隅に「板橋宿本陣跡」 の石碑と「板橋宿本陣飯田新左衛門家」 の説明板があるだけとは、淋しいこと。

続いて「中宿脇本陣」は中宿の名主 飯田家の屋敷で、将軍家茂に降嫁する 和宮の宿所や岩倉具定率いる東山道軍 の本営になった所。お成り道には、飯 田家菩提寺「文殊院」もあります。

板橋を渡って上宿へ

「板橋」駅から2時間程で板橋区の



▲文殊院を出る一行

地名の由来といわれる「板橋」に着き ました。

江戸時代の板橋は、緩やかな太鼓橋 で、昭和7(1932)年に平たんな橋に 改架されました。日本橋より、二里 二十五町三十三間 (10.642km)、橋 を渡ると上宿です。

右手に名主の屋敷「上宿脇本陣」、 その先には、「大木戸」がありました。

さらに先の、男女の縁切を祈願す る「縁切榎」も必見。五十宮、楽宮、 和宮の嫁入り行列は縁起が悪いので、 ここを避けて迂回したそうです。

縁切榎から板橋へ戻り、石神井川に 沿って南下、火薬製造に使用した圧磨 機の圧輪記念碑、野口研究所を見て、 加賀公園に行きました。

広大な加賀前田家下屋敷

板橋の架かる「石神井川」をも含む 広大な地域が加賀藩下屋敷です。将軍 家綱より6万坪(約1,983a)を拝領 して以来、最終的には21万7千坪(約 7,174a) になり、参勤交代途中の休 息などに利用されました。

屋敷内には、御殿のほか、御亭所5、 御門9、番所4、井戸6、小屋8、橋 6、築山17、林8、畑4なども点在。 猪鹿狩や鷹狩もできたほどの広さです。

石神井川付近の加賀公園は築山跡で す。また、明治3(1870)年に八丈島か ら内地に帰還を許された宇喜多秀家の 子孫が、遠縁にあたる旧加賀藩の前田 家の一部の土地を借り与えられて百姓 生活をしたのも、この屋敷地内でした。 【記録】文・写真:広報部会・国定美津子

サークルだるり

◎活動概況

- ◆江戸東京を巡る会:9月7日(水)「大名屋敷跡と名刹を 訪ねる(港区編4)」と銘打って、西郷南洲・勝海舟会 見碑(薩摩屋敷跡)、雑魚場跡(落語「芝浜」ゆかり)、 鹿島神社、松平豊後守屋敷跡、松平阿波守屋敷跡、水野 大監物忠清屋敷跡などのほか、大松寺、常林寺、長松寺 (荻生徂徠墓)、魚籃寺、三田台公園、済海寺(最初のフ ランス公使館)等をめぐった。参加者37名。
- ◆落語と講談を楽しむ会:8月23日(火)月番の森川昌子さん・島田昭さんの提供・解説で、三遊亭歌之助の「爆笑龍馬伝」(鹿児島弁落語)「竹の水仙」と人間国宝・柳家小さんの「強情灸」「にらみ返し」のDVDを鑑賞した。参加者24名。9月27日(火)月番・伊東敏男さんの構成・案内で「上野界隈落語散策」と題して、台東区役所を起点に落語「黄金餅」ゆかりの地(元下谷山崎町)、下谷神社(寄席発祥の地)、林家彦六師匠住居跡、下谷教会(三遊亭圓朝終焉の地)、上野公園(「長屋の花見」「崇徳院」「景清」などの落語の舞台)、落語「なめる」の胃薬「宝丹」をいまも売る守田治兵衛商店、鈴本演芸場、お江戸広小路亭、本牧亭跡、落語協会(黒門亭)などをめぐり、たっぷりと落語の世界にひたり楽しんだ。参加者18名。
- ◆藩史研究会: 8月12日(金)西村英夫さんが、常陸麻生藩について研究発表を行った。外様の小藩でありながら譜代並みの扱いを受け、江戸時代を生き抜いた麻生藩の興味あふれる発表に一同大きな関心を寄せた。参加者は18名。9月9日(金)土屋献一郎さんが、結城藩について研究発表を行った。詳しい系図や年表、地図により、結城氏の出自や変遷をたどり、結城一族の動きを通じて中世の戦乱の状況についての理解を深めることができた。

参加者20名。

- ◆古文書で『八丈実記』を読む会:8月は夏休みとし、9 月8日(木)、30日(金)に例会を開催。参加者は各6、8名。
- ◆神田川を歩き楽しむ会: 8月24日(水)猛暑のため神田川を歩くのはやめ、JR「東浦和」駅に集合、国指定史跡の見沼通船堀で行われた「閘門開閉実演」を見学した。実演終了後、木曽呂の富士塚を見て、日本料理「ふじ」で昼食会を行い、帰り道に水神社、見沼通船堀差配・鈴木家住宅付属建物、附島氷川女体社を見学した。参加者42名。9月29日(木)と10月2日(日)に第21回として、高戸橋から豊橋まで神田川沿いに歩いた。途中、「山吹の里」石碑、高田氷川神社、南蔵院、金乗院・目白不動、根生院、観音寺、早大演劇博物館、放生寺、穴八幡宮、史跡高田馬場跡、水稲荷、甘泉園などを参拝あるいは見学した。参加者は各62名、23名。
- ◆『江戸名所図会』輪読会:8月は夏休みとし、9月19日(月)西村英夫さんの担当で、高輪の如来寺から高山稲荷社を読み、活発な議論を行った。参加者22名。



●各サークルとも引き続きメンバーを募集しています。奮ってご参加ください(ただし、輪読系の2サークルについては現在満員のため欠員が出たときに先着順で参加していただくことになります)。参加ご希望の方は、はがきに①サークル名、②会員番号、③氏名をご記入の上、友の会事務局へお申込みください。また新しいサークルの立ち上げ希望の方は友の会事務局へお問い合わせください。申込・問合せ先

〒 130-0015 東京都墨田区横網 1-4-1 江戸東京博物館友の会事務局 Tel.03-3626-9910

◆役員会

8月9日(火)14時開催。来年度の総会開催日予定、事務局員の交代、ダンス公演への協力関連の報告があった。また、事務局のパソコン・プリンターの使用状況および更新について検討した。出席者14名。

9月13日(火)14時開催。友の会名 刺作成検討チームから経過報告があ り、取りあえず「シンボルマーク」の 募集を行うこととした。現事務局員退 職にともなう新事務局員の紹介があっ た。出席者14名。

◆事業部会

8月2日(火)16時30分開催。7月 の事業および本年度「えど友研究発表 会」の実施報告、8月事業の進行状況 および年内の事業計画等を確認した。 出席者21名。 会議·会合日誌 2011/8~2011/9

9月6日(火)16時開催。事務局の人 員交代について報告があった。8月の 事業の実施報告、年内事業の進行状況 及び計画を確認した。出席者23名。

◆広報部会

8月19日(金)14時開催。『えど友』 63号の校正内容の報告があった。投稿の内容に問題が指摘され、対応を話し合った。また、「誌面見直し検討チーム」、「広報部会マニュアル作成チーム」の作業現状について報告があった。出席者12名。

9月16日(金)14時開催。『えど友』

63号の最終校正の確認、『えど友』 64号担当、進行状況、スケジュール の確認をした。「広報部会マニュアル」 の内容を検討した。出席者11名。

◆総務部会

8月30日(火)13時開催。『えど友』 63号の発送業務を行った後、今後の 活動予定と担当を確認した。事務消耗 品の在庫確認、部内の名簿、連絡網の 確認等を行った。出席者 27名。

9月30日(金) 13時開催。『江戸東京博物館 NEWS』vol.75等の発送業務を行った後、今後の活動予定と担当、在庫確認などを行った。出席者22名。

◆文政町方書上翻刻 プロジェクト A、Bグループとも8月4日(木)、 9月1日(木)、15日(木)に例会開催。 出席者は(A)各10、8、10名、(B) 各10、10、9名。



深川開発と伊奈家

新 倉 隆 一

町方書上翻刻チームは、本年6月町 方書上の第1編「本所編」を完成させ、 プリント本ではありますが館の図書館 で公開されています。

「町方書上」は明治維新後幕府から 明治政府に引き継がれた「旧幕引継書」 の一つで、文政年間(1818~1829) に幕府が町名主にそれぞれの町々の由 来、現況など報告させて作成された地 誌です。

「町方書上」にはそれぞれの町々に ついてお城からの距離・方角、町の成 立事情, 軒数、坪数、家数、旧家の由 緒書など記載内容が非常に豊富です。

「町方書上」に掲載されている町々は 当時の町方全域にわたっていますが、 日本橋を中心とした古町が含まれてい ないのは残念なことです。

われわれA班は「本所編」に次い で「深川編」の翻刻を終了し、現在最 終校正及び索引・一覧表の作成段階に 至っています。

その「深川編」で一番多く出てくる 著名人は、代官伊奈半左衛門、伊奈半 十郎です。伊奈氏は初代忠次から十二 代忠尊に至る 200 年間にわたり関東 郡代として広大な関東直轄地の経営に 当たってきました。とくに深川につい ては永代橋の架橋、深川漁師町の起立、 木場町の設置、その他の多くの町々の 起立、そして葛西用水の開削による新 田開発等深川地区の形成・基盤整備に ついての指導的立場にありました。

深川地区の開拓、新田開発を実際に 担当したのは農民あるいは商人でした が、その指導および管理を行ったのは 関東郡代である伊奈家でした。

伊奈家の初代伊奈忠次(備前守)は 小田原戦役以前から徳川家康の信任の もと、若い頃より習熟していた土木技

術・算用勘定を活用し太閤検地に実施 することにより領国の郷村の形成、経 済基盤の確立を計ってきました。又関 東入国後は代官頭として特に家康の蔵 入直轄地となった武蔵・下総の関東領 国の経営に尽力しました。

当時北武蔵国は利根川・荒川・綾瀬 川・渡良瀬川・入間川等が乱流し江戸 湾に乱入しており、この河川流域には 池沼や沼沢地が広がりまた常に水害に 見舞われ、農地は限られ農地生産力は 劣悪な状態でした。この広大な不毛地 を沃野に変えるため乱流する河川の流 れを整備し、利根川の流路を江戸湾か ら太平洋に直接流す「利根川東遷工事」 が関東郡代伊奈家の事業として初代忠 次に始まり代々受け継がれて実施され

文禄 3(1594)年「会の川締切」か ら承応 3(1654)年赤堀川の通水によ り利根川本流が銚子を経由し太平洋に 通水するまで、初代忠次から三代忠治 までおよそ50年以上にわたる大工事 でした。その間関連して荒川の瀬替え、 綾瀬川の改修等も実施され、関東平野 は広大な新田開発が促進され、河川の 交通網が整備され、やがては江戸幕府 の財政を支える穀倉地帯になっていき ました。

一方江戸湾に流入していた利根川が 東遷し、江戸湾に流入する隅田川・中 川は荒川・入間川筋のみの流入となっ たため、隅田川・江戸川の水位が低下 し、江戸城際まで海にしていた江戸湾 は後退し、隅田川流域の深川地域の陸 地化が進行し、干拓事業がしやすく なってきました。

また江戸の人口急増により江戸市街 が急速に膨張し市街地の拡張が望まれ てきて、明暦大火以降隅田川以東の本 所・深川地区の干拓事業が本格化し、 関東郡代である伊奈家の土木技術が駆 使され開発が急速に進展し町の造成、 新田開発が進んでいきました。

伊奈家三代忠治により猟師町の開発 がスタート、以後歴代の後継者が関東 郡代としてその任に当りましたが、七 代半左衛門忠順、八代半左衛門忠逵、 十代忠宥の時代(元録から明和の頃) が深川開発のピークであり、町方書上

に出てくる御代官伊奈半左衛門はこの 人たちです。

関東郡代伊奈家は寛政 4(1792)年 政治上の理由でその役を罷免され、伊 奈家は改易されてしまいました。罷免 の理由はいろいろありますが、大きな 意味で関東の開発は終了し、大きな権 力を持つ関東郡代則ち伊奈家の存続理 由か終焉したことが主な理由です。

(岩松精氏の作成された伊奈家の系 譜・年表等を参考にしました)

江戸野菜で江戸めぐり

笹 田 晶 子

江戸博の展示を見学する度に、まる でタイムスリップしたかのように江戸 の生活がとても身近に感じられ、もし 江戸に生きていたら……と想像するだ けで、目の前の展示物が臨場感を持っ て浮かび上がり、いつもワクワクしま す。『えど友』の読者のみなさんの中 にも、そんな風に感じられる方はい らっしゃいませんか?

同じく江戸野菜と聞くと、当時の江 戸の人々の毎日の食卓の様子が目の前 に浮かんできます。大都市江戸で生ま れ育ち、江戸の人々の胃袋を満たして きた江戸の野菜のいくつかは、さまざ まな歴史を経て、現代に引き継がれ、 東京に生きる私たちの毎日の食卓に のっている、そう考えるだけで野菜を 見る目も変わってきます。

江戸野菜の産地は江戸時代から人々 がその地に住み着いていた証でもあり、 それらの野菜には産地の名前がそのま ま付いているものも多くあります。そ こで、江戸野菜の産地を訪ねて江戸の 人々の暮らしをしのんでみるのも一案 と思いました。

例えば、亀戸大根、練馬大根、早稲 田みょうが、滝野川ごぼう、駒込なす、 などがありますが、その中の一つ、亀 戸大根の地、亀戸にスポットをあてて みたいと思います。

亀戸大根の栽培は文久年間(1861 ~1864)の頃から亀戸あたりで栽培 されていた記録があり、その後亀戸近 郊でも栽培されるようになりました。

この大根は、江戸時代初期にこのあた りの開拓地に持ち込まれた四十日大根 だといわれています。

亀戸の名の由来は、当時は小さな島であり、その形が似ていることから亀の島と呼ばれていたものが、その後陸続きとなり、長い時間を経て亀戸という現在の地名になったそうです。

亀戸といえば、藤の花で有名な亀戸 天神をはじめ、萩の花を楽しめる龍眼 寺、そして亀戸大根が特にこの周辺で 栽培されていたという香取神社など、 見どころがたくさんあります。また、 亀戸大根を使った名物料理を食べさせ てくれる料理屋さんもあります。この 秋の散歩コースにぜひ取り入れてみて はいかがでしょうか?

【参考文献】

『江戸東京野菜 図鑑編』(大竹道茂 監修・農山漁村文化協会)

『お江戸の地名の意外な由来』(中江 克己・PHP文庫)

四谷怪談とお岩さんの素顔

宮 川 勉

四谷のわが住まいのすぐ近くに「田宮於岩稲荷神社」というのがあります。 有名な「東海道四谷怪談」の主人公「お岩さん」をまつった小さな神社ですが、本当の「お岩さん」はどんな人だったのかを知りたくて、過日その「於岩稲荷神社」を訪ねました。当主からお聞きしたことを書いてみます。

もともとお岩さんの生家・田宮家は 徳川家の御家人であり、駿河の国から 家康の入府とともに江戸にやって来た そうです。そして、今の田宮家のある 左門町に移り住みました。当時の左門 町は御家人の町で、今の新宿通り沿い に商家、町家があり、お濠端あたりは 大名や旗本の家があり、あとはまだま だ未開の地だったそうです。

駿河から江戸へやって来たとき、田宮家の守り神である「お稲荷さん」も一緒に持ってきました。それを左門町の田宮家の庭の一角におまつりしました。お岩さんは駿河からやってきた御家人・田宮家の娘、つまり跡取り娘だったのです。

時は移り、徳川の治世が進むと世は平和となり、武士の出番がなくなり、町人や商人の時代がやってきました。大名や旗本はいざ知らず、緑蒿の少ない御家人たちの生活はたいへんでした。不景気の時代、給料が減らされるのはいまと同じ。このままでは家が傾く、お岩さんはきっとそう思ったのでしょう。

そこで仲のよかったお岩さん夫婦は 現在の新宿通り沿いにあった商家や番 町辺りの大名・旗本の屋敷へ働きに出 ることになりました。根は働き者のお 岩さんだったのでしょう、毎朝家を出 る時は必ず屋敷の片隅にある「お稲荷」 さんへお参りしてから働きに行ったそ うです。ぜいたくせず、せっせと働き、 コツコツと貯める。これはいつの世も 必須条件でしょう。お岩さん夫婦も骨 惜しみせず、せっせと働き、コツコツ と蓄えました。士農工商という身分制 度がある時代に上司の大名・旗本屋敷 の奉公人となるのではなく、商人のも



カット:名取陽子(会員)

とで働くというのですから、御家人の プライドを捨てて、お岩夫婦は働きに 出たのです。

「信仰あるところ、必ず、神助あり」かくして、傾きかけていた田宮家は持ち直し、寛永13(1636)年お岩さんが亡くなりました。しかし、この時点ではまだ「東海道四谷怪談」は生まれていません。

時は移り約200年後、文政8(1825)年、四世・鶴屋南北による「東海道四谷怪談」が初演されます。この200年の間、江戸の町ではお岩さんは「貞女の鑑」としてあがめられ、お岩さんの人気は知らぬ者がないほどだったそうです。田宮家の屋敷のお稲荷さんを拝ませてくれ…という人々が多く、やがて、「於岩稲荷社」というれっきとした「社」になり、お参りに来る人は後を絶たなかったそうです。

文政年間は明治維新まであと約40年。政情不安からちまたでは暗殺、虐殺、親の子殺し、子の親殺しがあり、町民は精神的な衝撃や刺激を求めていた頃でした。そんなとき、鶴屋南北は「貞

友の会のシンボルマークを募集、奮ってご応募ください!

この度、江戸東京博物館友の会としてのシンボルマークを作成することとしました。そのねらいは、①会としての一体感、外部へのPR、②友の会発行の印刷物に使用などです。

ついては、以下の要領でシンボル マークを公募いたします。

[募集要項]

募集内容: 友の会のシンボルとなる

マーク。ただし、「えど友」 の呼称は使用できません。 官製はがきに $1/8\sim1/4$ 程度の大きさで描く。

期 限:平成24年1月10日

送り先:〒130-0015

東京都墨田区横網 1-4-1

江戸東京博物館友の会事務局

審 査: 友の会役員会

発 表: 平成24年3月1日発行 『えど友』66号誌上

賞 品:採用分に図書カード(1万円) ほかに佳作数点を予定

使用権:作品の使用権は友の会に帰属 します。また、作品はお返し

しません。

女の鑑」のお岩さんをモデルに、その ままのお岩さんでは面白くないと、あ ちこちの残虐な殺人事件をお岩さんに 絡み合わせできたのが今日われわれが 接する「東海道四谷怪談」で、これが 大ヒットしました。それはいままでの 歌舞伎と違い、舞台にいろんな仕掛け、 からくりが用いられたことに起因して います。江戸博6階にある常設展の中 の「東海道四谷怪談」の仕掛け「蛇山 庵の場」を見ればご理解いただけるで しょう。於岩稲荷は芝居のお岩さんに 心を寄せる悲しい運命を背負う女性た ちにも人気があり、また、この芝居の 興行主や演ずる役者のお参りへと参詣 人の層が広がりました。

お話しを聞かせていただいた現当主 は、明治10年代生まれの祖母が子供 の頃、「お化けの家」にされてイヤだっ たと生前言っていたとおっしゃってい ました。

いつの世も、真実や事実を知らずし て、表層だけを面白おかしく話す人が いることは変わりないのでしょう。

「御行の松」の今昔

国定美津子

◇御行の松

「江戸期から、根岸の大松と人々に 親しまれ、『江戸名所図会』や広重の 錦絵にも描かれた名松で、現代の松は その三代目である」と、平成10年の 説明板に書かれているのが「御行の

松」。所は台東区根岸4丁目9番5号、 西蔵院境外仏堂不動堂内とあります。

私はかつて、この「御行の松」から 徒歩3分ほどの所に長く住んでいまし たが、昨年訪ねましたところ、松の木 は代替わりしても以前と変わらぬ境内 の風情に安堵感を覚えました。

◇松の由来と変遷

この「御行の松」の由来については 特に定説はないそうですが、一説には 松の下で寛永寺門主の輪王寺宮が行法 を修したからともいわれ、また地名の 時雨ケ岡から、別名「時雨の松」ある いは「五行松」とも称されています。

初代の松は、大正 15(1926)年に天 然記念物となり、樹高13.63m、幹 周囲4.09m、樹齢350年と推定され ましたが、昭和3(1928)年に枯死し ました。戦後になって、初代の松の根 を保存し、根の一部で彫った不動明王 像を不動堂にまつり、西蔵院と地元の 人々によって護持されているという次 第です。二代目の松は、昭和31(1956) 年に上野中学校の敷地から寄贈され、 移植されましたが、これも枯死したそ うです。三代目の松は、昭和51(1976) 年に植えられましたが、その左手には 初代の枯れた根も安置されています。

◇初代の松

それにしても初代の松の樹齢350 年という長さには驚きます。そこで昭 和当時、配られた「富士銀行坂本支店 のチラシ」を家に保存していましたの で、ここで紹介いたします。

このチラシには、大正9(1920)年

頃の「御行の松と不動堂」の写真があ り、大きく傘を広げた大松の姿は感動 的です。写真とはいえ、これほどの幹 の太い松を私は見たことがありません。 加えて、二代目の松のスケッチ画も添 えてあります。大松の前には、今は消 滅していますが、王子飛鳥山より通ず る小川石神井川と石橋も写っています。 この石神井川の別名は音無川・根岸川 といい、現石神井川下流の飛鳥山・染 井村付近から上野山下を下り、山谷 堀・隅田川に流れていました。

◇二代目の松

「二代目の松」は、樹命20年に満 たなかったようですが、私は昭和48 (1973)年にはこの地を去りましたの で、昭和51年以前に枯れたことは知 りませんでした。従って、私が昔見て いた「御行の松」は昭和31年に植え た「二代目の松」ということになりま す。初代には到底及ばぬ細松でしたが、 記憶の中のおぼろげな松を思い出しま す。根岸小学校・校歌には「春は上野 の山桜…、秋は御行の松の影…」とう たわれていますが、明治時代の上野は 山桜があり、初代の松は青々としてい たのでしょう。

◇鶯の谷

最寄り駅が「鶯谷」駅というこの根 岸の地は、往時はウグイスの名所とし ても知られ「初音の里」という名もあ りました。古くより文人墨客が愛好し、 弘化 4(1847)年頃より「鶯の鳴合せ」 が盛んに行なわれるようになったそう です。

「投稿」に関する ご報告とお願い

会報『えど友』に熱心に投稿いた だきありがとうございます。これま でに延べ 160 名 (9月1日現在) の 方がたの原稿を「えど友プラザ」欄 に掲載させていただきました。会員 のみなさんのご協力に改めて感謝申 し上げます。

このたびある会員の方から投稿さ れた原稿の大部分が参考文献(以下 「文献」と略)としてあげられた書 籍からの断りのない引用、一部改変 であることがわかりました。慎重を 期すため編集部全員で原稿と文献を 照合しましたが、結果は同じでした。

編集部では、このような原稿をそ のまま『えど友』誌上に掲載するこ とはできないと判断し、事情を投稿 者に説明したところ納得され投稿を 取り下げられました。

編集部としては、会員のみなさん が自説を補強する意味で他人の著作 物をいろいろ調べられ必要最小限に 引用され、投稿されることに異を唱 えるものではありません。参考とさ れた他人の著作物がある場合にはそ

の名称・著作者名を原稿の末尾にお 書き添えいただき、また、実際に引 用された箇所は括弧(「」)でくくっ てご自分の文章と区別されるようぜ ひお願いします。もちろん、ご自分 の体験などをまとめられたような場 合はこの限りではありません。

どうかこれからもマナーを守り、 どしどし原稿(字数 1000 字以内) をお寄せいただき、『えど友』をよ り一層活気あるものにしていただく よう切望します。

『えど友』編集部

目黒のさんま

目黒不動参拝をかねて鷹狩に出かけたある殿様が昼時に近所で焼くサンマの匂いに引かれ、「苦しゅうない」とサンマを食べ、すっかりその味が気に入ります。お城に帰ってもその味を忘れられない殿様はサンマを食べたいと言ったのですが、家来どもがあまり塩気や油気の強いものはいけないとそれをすっかり抜いて出したので、まるでまずい味です。「このサンマはいずれから取り寄せた」「日本橋魚河岸にござります」「それはいかん。さんまは目黒なります」「で下げになる、みなさんお馴染みの落語です。

あまりにも知られた落語ですが、その舞台となった場所は目黒区三田の茶屋坂あたりとされています。今回はそこを訪ねてみようというのですが、

「目黒のさんままつり」に合わせて行くのも一興です。しかし、漫談のネタにもあるように「目黒駅は品川区にあり、品川駅は港区にある」ので、「目黒のさんままつり」もややこしいのです。品川区の「目黒のさんま祭り」と目黒区の「目黒のさんま祭」があるのです。タイトルも「さんま祭り」と「さんま祭」と微妙に違うのです。今年は



▲品川区の「目黒のさんま祭り」

9月4日が品川版、9月18日が目黒版で両日とも行ってみました。

品川版は、JR「目黒」駅東口を出れば、大勢の人出ですぐそれと分かります。こちらは岩手県宮古市と提携していて、サンマ6,000匹が無料配布されるとあって長蛇の列です。近くの誕生八幡神社での木戸無料の「目黒のさんま寄席」も長蛇の列、いずれも今年は「東日本大震災チャリティ」と銘打っていました。

目黒版は、田道広場公園が会場で「目 黒」駅から徒歩10数分のところです。 目黒区民まつりの一環で、こちらは宮 城県気仙沼市と提携、サンマ5,000 匹が無料配布で、やはり長蛇の列です。 こちらも「がんばろう東日本」と復興 支援をうたっていました。

爺々ヶ茶屋への道

ではJR「目黒」駅から茶屋坂を目指しましょう。西口からJRの線路と平行する道を恵比寿方面に行きます。 少し行くと左に三田公園という小さな公園があります。説明板によると、こ



▲茶屋坂街かど公園

の辺の目黒川沿いの台地はかつて「千 代ヶ崎」と呼ばれ、西に富士山、東に 品川の海を臨む景勝地で、その様子 は『江戸名所図会』にも描かれている そうです。少し先に小さいながら手入 れの行き届いた春日神社という天徳2 (958) 年創建の古い神社があります。 さらに進むと「恵比寿南一公園前」と いう交差点に出ます。これを左折して 坂を上ります。この坂は「新茶屋坂」 と地図にはありますが、標識は見当た りません。坂を上りきった信号のあた りから坂を下りていく道に並行して高 さを保ったまま行く側道がありますの で、これを進みます。途中「茶屋坂児 童公園」がありますが、構わず直進す るとマンションに突き当たります。こ



▲目黒区の「目黒のさんま祭」

れを左下に下りていく細い道を行くと、 「茶屋坂と爺々ヶ茶屋」という説明板 に突き当たります。

何で「目黒のさんま」なの?

この説明板は平成3年3月に目黒 区教育委員会が立てたもので、「この 坂上に百姓彦四郎が開いた茶屋があっ て、三代将軍家光が目黒へ鷹狩りに きた都度立ち寄り、店主を「爺、爺」 とかわいがったことから「爺々ヶ茶 屋」と呼ばれ、広重の絵にも見えてい る、以後の将軍も鷹狩りにくる度に立 ち寄り、銀1枚を与えるのが例となっ た〕というようなことが書いてありま す。問題はそのあとで「こんなことか ら「目黒のさんま」の話が生まれたの ではないだろうか〕とだけ記されてい ます。将軍がこの茶屋をひいきにした のと殿様が目黒でさんまを食べておい しかったという話との関係の論拠は何 もないのです。でもこれは落語の上の 話で史実ではないのですから、そう目 くじらを立てることではなく、説明板 に「目黒のさんま」を入れてくれた教 育委員会の人に感謝したいと思います。 おかげで「目黒のさんま」もゆかりの 地を持つことができたのです。

さて、この説明板を右折、坂を下りていくと「茶屋坂」の標柱があり、さらに進むと「茶屋坂街かど公園」です。ごく小さな公園ですが、「茶屋坂の清水」の石碑が建ち、「目黒のさんま之図」と「将軍家鷹狩之図」のプレートが埋め込まれています。

さらに直進すると目黒清掃工場に突き当たるので左に行けば、田道広場公園です。あとは大鳥神社、目黒寄生虫館、目黒不動などお好きな目黒観光を!「散歩は目黒に限る」かも。

【取材】歩いた人(文・写真・イラスト): 広報部会・松原良

催事案内

古文書講座

各編とも来年1月から第3期を開講

各期ごとに改めてお申込みいただくことになっておりますのでご注意ください。自動継続ではありません。

◆入門編

・講師:田中潤さん(学習院大学文学部史学科助教/近世の門跡 寺院を中核とした朝廷史・仏教史・文化史を研究)

●開催日:1/11(水)、2/1(水)、3/7(水)

◆初級編

講師: 吉成香澄さん(学習院大学大学院史学専攻/幕府職制や 幕藩関係、特に将軍姫君の婚礼や付人役人などを研究)

●開催日:1/18(水)、2/15(水)、3/21(水)

◆中級編

→ 講師:長坂良宏さん(学習院大学大学院史学専攻/近世政治史、 主として近世朝幕関係、近世公家社会を研究)

●開催日:1/21(土)、2/18(土)、3/17(土)

● 時間:各講座とも、A 講座は 10:30 ~ 12:30、 P 講座は 14:00 ~ 16:00

(注意)各講座とも、A 講座か P 講座かの希望を明記して お申込ください。

●会場:各講座とも江戸博1階会議室または学習室1、2

● 定員:各講座とも80人(会員のみ)

●参加費:各講座とも全3回1,500円(初回一括払い)

• 申込締切:各講座とも 11 月 30 日(水)必着

◆第2期の残日程

入門編 11/2(水)、初級編 11/16(水)、中級編 11/19(土) 【企画担当責任者】宮 俊(事業部会)

友の会特別観覧会

●NHK大河ドラマ 50 年 特別展「平 清盛」展

◆来年1月から始まるNHK大河ドラマ「平 清盛」と関連して開催されるもので、平安時代の末期、平氏の全盛期を築いた平清盛の一生を、平氏ゆかりの遺品や平家物語の絵画、当時の文化を象徴する美術・工芸品などの資料により紹介する特別展です。また、平氏にゆかりの深い世界遺産・厳島神社にも焦点が当てられます。担当の齋藤慎一学芸員による「見どころ解説」をお願いしていますので、ご期待ください。

• 開催日:1月6日(金)17時~19時

● 申込締切:12月19日(月)必着

●会場:江戸東京博物館・1階ホール/企画展示室

●定員:200名 同伴者可(はがきに氏名連記)

• 参加費:会員 500 円・同伴者 700 円(当日払い)

【企画担当責任者】松原良(事業部会)

友の会セミナー

第111回「江戸衣裳~武家、商人、職人など 男女の着物とその変遷を楽しむ~」

講師 菊地ひと美さん(江戸著者・画家)

※4月に開催を中止したセミナーの再募集です。

◆江戸男女の衣裳・全体を俯瞰してお話していただきます。 男性は職業服なので、武家、商人、職人などの〈身分別〉と、 礼装、上着、袴、羽織、鳶の腹掛け、股引などの〈単品 別〉のそれぞれについて、女性の衣服は流行があり、初 期から後期にかけて身幅や,丈、帯幅、色、髪の髷の形 が激変していきますので、その流行をみながらのお話で す。男性の裃にも流行があり、町人男女の礼装は? 粋 な柄とは? など見どころ聞きどころいっぱいです。

○講師略歴: きくち・ひとみ

昭和30(1955)年、伊達藩生まれ。衣裳デザイナーを経て早稲田大学や江戸博で学び、江戸の著作活動を開始。日本橋再開発で脚光を浴びる。江戸博玄関前の「江戸日本橋絵巻」(30m)の画家。国立劇場から制作依頼の「絵巻4巻」は、ローマなど海外2カ国の国立美術館で展覧。著書に『江戸おしゃれ図絵』(講談社)、『お江戸の結婚』(三省堂)、『江戸衣装図鑑』(東京堂出版)など。

●開催日時:11月26日(土)14時~15時30分

申込締切:11月17日(木)必着

●会場:江戸東京博物館・1階ホール

●定員:200名 同伴者可(はがきに氏名連記)

●参加費:会員 500 円・同伴者 600 円(当日払い)

【企画担当責任者】松原良(事業部会)

第 112 回「江戸の総鎮守 神田明神の祭礼と文化」 講師 清水祥彦さん [神田神社 (神田明神) 権宮司]

◆神田明神の氏子は神田・日本橋・秋葉原・大手町に広がり、 まさに江戸総鎮守にふさわしい伝統と文化が代々受け継が れてきました。神社は地域社会の象徴的存在でもあります。 江戸を学ぶにあたり神田明神を知ることは必須条件の一 つでもあると思います。日本文化の基層としての神道を 語り、神田明神に秘められた歴史と文化の扉を開いてそ の神髄をお話しいただきます。

○講師略歴:しみず・よしひこ

昭和 35(1960)年、東京都生まれ。國學院大學卒業。昭和 58(1983)年鶴岡八幡宮(鎌倉市)奉職、昭和 62(1987)年神田神社(神田明神)奉職、現在に至る。この間、東京都神社庁千代田区支部長、内閣府中央防災会議「災害教訓の継承に関する専門調査会委員」などを歴任、平成 21年より東京都神社庁理事。

● 開催日時: 12月24日(土)14時~15時30分

• 申込締切:12月15日(木)必着

●会場:江戸東京博物館・1階ホール

• 定員:200名 同伴者可(はがきに氏名連記)

参加費:会員 500 円・同伴者 600 円(当日払い)

【企画担当責任者】小林弘明(事業部会)

「広重『名所江戸百景』周辺探訪 ─その5(本所深川・大川端周辺)─」

◆広重『名所江戸百景』は安政期の江戸の四季、風景、 風俗などをこまやかに描いた作品です。この企画では 広重が描いたと思われる場所とその周辺を探訪し、今 の街の姿のなかに江戸時代の風景、背景を思い浮かべ、 そこに吹く風や情景を少しでも感じていただこうとす るものです。今回は両国橋下流の隅田川に沿って、両 国~新大橋~清洲橋~清澄白河まで歩きます。大川の 流れの中に、対岸安宅辺りは、雨に煙り、突如として 激しく降り出した夕立に足を早める橋の上の人々、あ の印象派画家ゴッホにも大きな影響を与えた絵『大は しあたけの夕立』や深川萬年橋に吊るされた亀を描き 「鶴は千年、亀は萬年」としゃれた『深川萬年橋』など を訪ねます。所要時間は約3時間半、大江戸線「清澄 白河」駅で解散となります。

【今回訪ねる広重の作品】『両ごく回向院元柳橋』『浅草 川大川端宮戸川』『大はしあたけの夕立』『深川萬年橋』 『みつまたわかれの淵』

●開催日:11 月 27 日(日)12 時 45 分集合 集まり次第、時間前でも出発します。

● 集合場所: J R 「両国」駅国技館側改札出口

申込締切:11 月 17 日(木)必着

●定員:150名 同伴者可(はがきに氏名、住所、電話番 号連記)

●参加費:会員、同伴者とも500円(当日払い)

【企画担当責任者】山本隆(事業部会)

お申込方法

- *「えどはくカルチャー」など江戸博への申込と違い、普通はが きで宛先も「友の会事務局」と明記ください。お間違いなく!
- ◆普通はがきに、①催事名(略名可)·開催日、②会員番号、 ③氏名(同伴者連記)を明記して下記の「友の会事務局」へ。 **「往復はがき」の必要はありません。**なお、見学会に 限り傷害保険の関係で同伴者の氏名、郵便番号、住 所、電話番号も書いてください。
- ◆締切:各催事の案内をご覧ください。
- ◆申込は、各催事ごとに会員1人1通。
- ◆友の会へのご意見・ご要望があればご記入ください。
- ◆申込先:〒130-0015 東京都墨田区横網 1-4-1 江戸東京博物館友の会事務局
- *お申込いただきますと、「受講票」をお送りします。当日ご 持参のうえ、受付でご登録ください。

なお「受講票」は逐次お送りするのではなく、申込締切数 日後一斉にお送りしますので、それまでお待ちください。

- *いずれも申込多数の場合は抽選となることがあります。
- *「受講票」未着のお問合せや参加予定変更の連絡などは事 務局員出勤の火曜日か金曜日(10時~12時、13時~17 時)にお願いいたします。
- *「受講票」がないと受講できません。必ず事前に申込をし てからご参加ください。

会員優待のお知らせ

好評開催中、お見逃しなく!

特別展

「世界遺産ヴェネツィア展 〜魅惑の芸術 - 千年の都〜」

会 期 2011年9月23日(金·祝)~12月11日(日)

休館日:毎週月曜日、ただし10月10日は開館

会 員:一般700円、65歳以上350円、大・専門生560円 同伴者:一般1,120円、65歳以上560円、大・専門生890円 *小学生、中学生、高校生は65歳以上と同じ。

次回予告

NHK大河ドラマ50年

●特別展「平 清盛」

会 期 2012年1月2日(月·祝)~2月5日(日)

休館日:1月23日(月)、30日(月)

会 員:一般650円、65歳以上320円、大·専門生520円 同伴者:一般1,040円、65歳以上520円、大・専門生830円 *高校生は65歳以上と同じ。中学生以下は無料。

企画展のご案内

●企画展

好評開催中 /

「日光東照宮と将軍社参」展

会 期 2011年10月8日(土)~11月23日(水·祝)

会 場 常設展示室5階 第2企画展示室

次回予告

●企画展

「絵で楽しむ忠臣蔵」展 「歴史の中の龍」展

会 期 2011年12月3日(土)~2012年1月29日(日)

会 場 常設展示室5階 第2企画展示室

『えど友』へのご意見、ご要望をお寄せください!

会報『えど友』を、皆さまにより楽しんでいただけるよう。 広報部会では『えど友』誌面見直しチームを発足させ、8月 の末から友の会催事に参加いただいた方々に、会場でアン ケート調査を実施しており、順次結果を集計中です。この間 行事に参加されなかった会員の方々にはその機会がなかった わけですが、『えど友』に対して日頃思っておられることや、 感じていること、こんな記事が読みたい、あんな企画が欲し いなど、何でもけっこうです。ぜひ、ご意見をお寄せくださ い(性別、年代を記入して官製はがきまたはメールで)。

はがき送り先: 〒130-0015 東京都墨田区横網町1-4-1

江戸東京博物館友の会事務局(広報部会宛)

メール送り先: otei@diana.dti.ne.jp

会報<えど友>第64号

平成23年11月1日発行(奇数月1日発行) 編集・制作:江戸東京博物館友の会広報部会 編集長兼発行人:松原良(会長) 副編集長:菅沼和男 編集人:佐藤幸彦、深尾恵美子、福島信一、内匠屋京子、中村貞子、原盛年、 佐藤美代子、国定美津子、天野哲夫、宮川勉、平林美幸

発行: 江戸東京博物館友の会

〒 130-0015 東京都墨田区横網 1-4-1 電話 03-3626-9910